

CSR Report 2023

首都高 CSRレポート 2023



首都高速道路株式会社

ひと・まち・くらしを

首都高速道路ネットワークで結びます



CONTENTS

- 3 トップメッセージ
- 5 CSRマネジメント
- 7 中期経営計画2021-2023
- 9 首都高の歴史
- 11 首都高の現状
- 13 **特集** 大規模更新事業の推進
高速大師橋リニューアル

首都高CSR方針に基づいた活動報告

15 お客さまのために



- 15 安全・安心に向けた取り組み
- 23 渋滞緩和に向けた取り組み
- 25 お客さまサービスの向上
- 29 交通安全対策の推進

31 社会のために



- 31 高速道路ネットワークの整備
- 33 災害対応力の強化
- 36 社会に根差した技術革新
- 38 国内外への技術力の展開
- 40 地域社会との連携
- 41 社会に貢献できる企業を目指して

45 環境のために



- 45 環境への取り組み姿勢
- 45 脱炭素社会に向けて
- 49 生物多様性の保全に向けて
- 51 循環型社会に向けて
- 53 沿道環境の改善に向けて
- 54 環境への取り組みの発信 ～shuto-E-co～

55 株主・投資家の皆さまのために



- 55 着実な債務の引渡しと返済
- 57 財務情報
- 58 事業評価
- 59 強固な経営基盤の構築に向けて

61 取引先の皆さまのために



- 61 入札・契約手続
- 62 工事の安全対策

63 社員ののために



- 63 誰もが安心して働ける職場づくり
- 65 人材育成の推進

- 67 会社概要
- 70 第三者意見
- 71 ガイドライン対照表／SDGs対応表

編集方針

首都高CSRレポートは、ステークホルダーの皆さまに対して、首都高道路株式会社のCSR活動の考え方、取り組みなどを広くお伝えすることを目的として作成しています。

当社の経営理念や経営計画及びCSR方針をはじめ、首都高の建設、維持、管理に係る事業概要、事業活動を通じた社会への取り組み、環境への取り組みなどを幅広く紹介しています。

首都高CSRレポート2023

〈対象範囲〉

当社の事業活動を対象としています。

〈対象期間〉

主に2022年4月1日～2023年3月31日の期間における事業活動について報告していますが、継続的な取り組み等はその前後の活動についても記述しています。

〈参考ガイドライン〉

- ISO26000(国際標準化機構)「社会的責任に関する手引き」
- GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード」
- 国連グローバル・コンパクト原則
- 環境省「環境報告ガイドライン(2019年度版)」

〈使用する略称〉

本レポートでは、「当社」は首都高道路株式会社を表します。また「高速道路機構」は、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構を表します。ジャンクションは「JCT」、パーキングエリアは「PA」と略記します。



シンボルマーク:トライアングルストリーム

東京を中心に神奈川・千葉・埼玉の3方面へ伸びる首都高道路のネットワークと、そのネットワークづくりを通じて「ひと・まち・くらし」を支えていくという当社の姿勢を表現したものです。

持続可能な社会の実現に向けて貢献し、
より良い未来を目指します。

代表取締役社長

前田 信弘



ひと・まち・くらしを支え続けます

高速道路は人と物を運び、人々のくらしを支える重要なインフラです。その中でも、首都高グループは、東京を中心に埼玉・神奈川・千葉の3方向へ伸びる首都高速道路の建設・維持・管理を担っており、首都圏のくらしや社会経済活動を支えていくことを使命としています。首都高速道路は開通から既に50年以上経過した路線が全体の3割以上になるなど構造物の高齢化が進んでいます。これまでも私たちは、継承し続けてきた知見と経験、そしてたゆまぬ努力で培った先進技術を活かし、繰り返し維持管理するとともに、大規模更新・修繕事業を推進することで安全性確保に努めてきました。

また、昨今は激甚化する災害への対応力が求められています。元来、危機管理や災害対策は、首都圏の社会経済を支える首都高グループが常時意識すべき重要な使命です。これまでも私たちは自然災害等に対する高い意識を持ち続け、有事の際に対処できる柔軟な対応力を養ってきました。

引き続き経営理念の「お客様第一」を胸に刻みながら、それらの責務を全うできるよう真摯に業務に取り組んでいきます。

未来に向けて様々な課題に取り組みます

第1は大規模更新・修繕等事業です。お客さまが安全・安心に首都高をご利用いただけるよう、日々の点検や計画的な補修を推進したほか、東品川栈橋・鮫洲埋立部などの更新事業を進めてまいりました。特に、2023年5月からは2週間の通行止めによる高速大師橋の架け替え工事も実施し、100年先の未来にも安全・安心な道路をお客さまに提供できるように努めています。あわせて、新大宮上尾道路事業の推進によるネットワーク機能強化や、まちづくりと連携した日本橋区間地下化事業についても着実に進めてまいります。

また、2022年12月には今後の大規模更新・修繕の取り組みについて検討を行い、羽田トンネルや荒川湾岸橋など新たに更新が必要な箇所を対象とした更新計画の概略を公表しました。早期の事業化に向けて、今後調整を進めてまいります。

第2はETC専用化への歩みです。ETC専用化は、①全てのお客さまにとって合理的な料金体系の実現、②料金收受業務の高度化・省力化、③お客さまサービスの向上に資するものです。2022年春より、既に運用中であった料金所1箇所に加

え、新たに34箇所、計35箇所の料金所をETC専用入口として運用しておりますが、引き続きETC専用化の概成に向けて、着実に取り組んでまいります。

第3はカーボンニュートラル戦略です。首都高グループは、2022年3月に「首都高カーボンニュートラル戦略」を策定しました。この戦略では、道路インフラを最大限に有効活用するとともに、省エネルギーの徹底や再生可能エネルギー導入、新技術の開発などを積極的に推進するため、「ネットワーク機能強化への新たなアプローチ」「社会インフラ企業としての自助努力」「グリーン社会との協創(産業界とのコラボ)」の3つの基本方針と12のリーディングプロジェクトを設定しました。

今後はこの戦略に基づき、省エネルギー化や施設の緑化を最大限推進するとともに、様々な分野の企業や団体等、産業界とも連携して新技術開発を積極的に進め、クリーンエネルギー導入を推進します。当面は2030年の中間目標達成に向けた取り組みを進め、カーボンニュートラル社会の実現に貢献していきます。

最後に、2023年度は中期経営計画2021-2023の最終年度です。引き続き目標達成を目指しながら、3年間の取り組みの振り返りや社会環境の変化等に伴うさらなる課題を踏まえ、新たな中期経営計画を策定します。首都高グループは

一丸となってお客さまの期待に応え、社会に貢献し続けてまいります。

これまで、そして、これからも、より良い未来へ

首都高速道路は、2022年12月に開通60周年を迎えました。1962年に京橋～芝浦間の4.5kmが開通してから、現在では、首都高速道路の総延長は327.2kmまで延び、首都圏のくらしや社会経済活動を支えるインフラとして1日約100万台のお客さまにご利用いただいています。これまで「安全な首都高を、快適に使っていただきたい」という強い意志と変わらぬ使命がぶれたことはありません。平時はもとより、首都直下地震や気象災害などの大規模災害時も、首都高グループの変わらぬ使命を果たすために、私たち首都高グループ社員一人ひとりは、日頃からあらゆる想像力を働かせ、シミュレーションや訓練を繰り返し、いざというときのために備えています。

そして、首都高グループは、これからも一丸となって、首都圏のひと・まち・くらしを結び、豊かで快適な社会の創造に貢献してまいりますので、皆さまの一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

基本理念

私たちは、首都圏のひと・まち・くらしを安全・円滑な首都高速道路ネットワークで結び、豊かで快適な社会の創造に貢献します。

経営理念

お客様第一 安全と快適を追求し、お客様に満足頂ける質の高いサービスを提供します。

地域社会との共生 地域の皆様とともに、よりよい環境の実現と地域社会の発展を目指します。

社会的責任 高い倫理観と透明性をもって、お客様、地域の皆様、投資家の皆様との信頼関係を築きます。

自立する経営 効率的で健全な経営を行い、新しい分野での事業も積極的に展開します。

活力あふれる職場 社員が自らの力を高め、誇りと達成感を培う職場をつくりまします。

企業倫理憲章

■ 関係法令及びその精神を遵守し、公正な事業活動を推進して、誠実な企業と評価されることを目指します。

■ 経営に関する情報などは積極的に公開して透明性を保ち、広く社会とのコミュニケーションを図ります。

■ お客様の個人情報ははじめとする情報の管理を徹底します。

■ 人権を尊重し、あらゆる差別を排除します。

■ 経営トップは、この憲章の実現に力を尽くします。この憲章に反する事態に対しては、経営トップが率先して改善に努めます。

ステークホルダーに貢献するために

あらゆるステークホルダーに貢献し、広く社会から認知・信頼される企業を目指すため、当社のCSR活動の基礎となる「首都高CSR方針」を2016年12月に策定しました。

本方針に従いCSR活動を推進するとともに、ステークホルダーへの説明責任を果たすべく取り組みの内容を公表していきます。

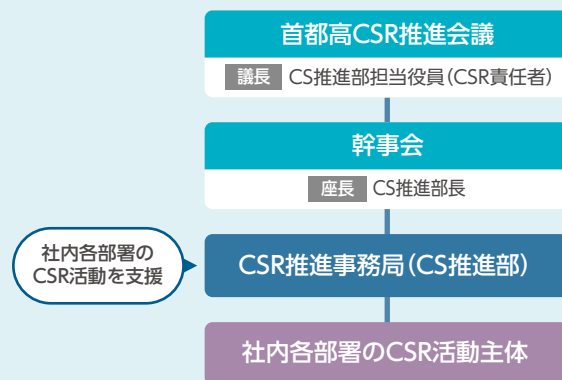
経営理念・中期経営計画とCSR



CSRマネジメント体制

当社におけるCSRマネジメントは、役員層による「首都高CSR推進会議」を頂点とし、CS推進部担当役員が議長を務める体制でマネジメントしています。各課題別所管部署の代表者からなる「幹事会」を適宜開催し、計画の立案と実行を担保しています。

CSR推進事務局(CS推進部)は、各会議のとりまとめに加え、社内各部署のCSR活動を支援し、全体に目を配る役割を担っています。



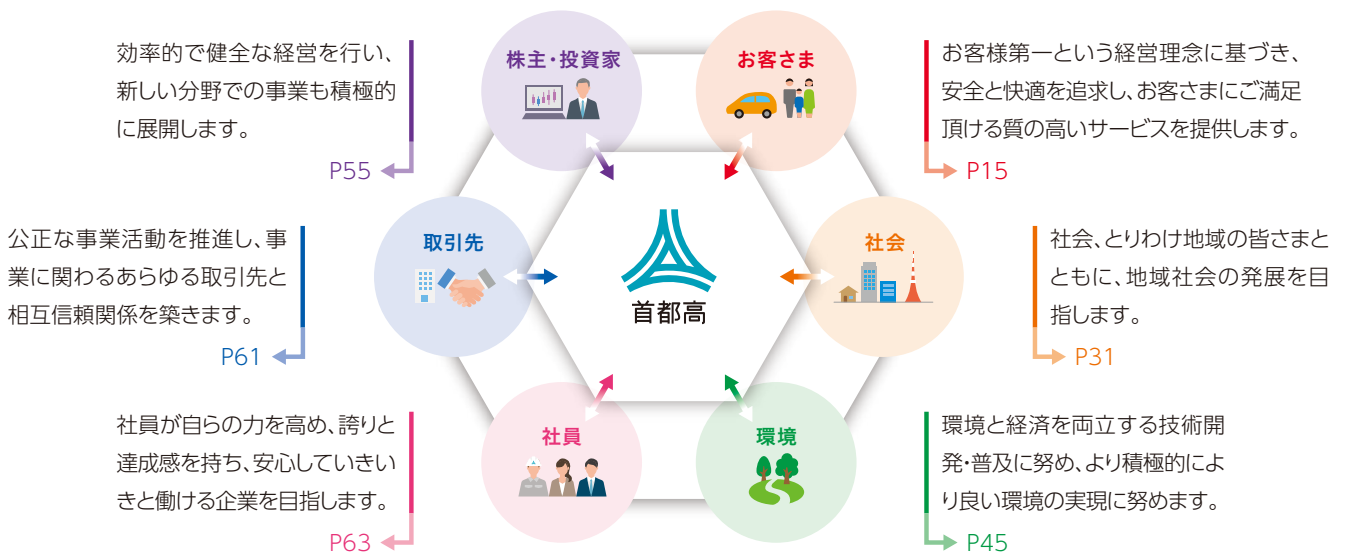
CSRに関する社員意識向上の取り組み

CSRに対する社内意識向上を目的に、社外講師による研修や講演会、CSRに関する最新動向等を掲載した社内メール配信を実施しています。当社の社会的責任や社会課題解決への取り組みに対する社員の認識を深め、業務に繋がるCSR意識の向上に努めています。



首都高CSR方針

私たちは、経営理念及び企業倫理憲章に基づき、
すべてのステークホルダーのためにあらゆる事業活動を通じて
持続可能な社会の実現に向け、貢献してまいります。



首都高CSRとSDGsのつながり

持続可能な開発目標(通称SDGs)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて掲げられた2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。

SDGsの達成に向けて当社が貢献できる目標や分野を見出し、事業活動を通じてその達成に寄与することは、当社が持つ社会的責任の一つとして捉えています。首都高CSR方針に基づくCSRの取り組みを通じて、SDGsの達成に貢献していきます。



P71～72に掲載の「SDGs対応表」をご参照ください。

中期経営計画 2021-2023

中期経営計画2021-2023においては、以下の6つの基本方針を定めています。また、各基本方針の下、具体施策を定めるとともに、施策の到達水準を明らかにするため、必要に応じて数値目標及び時期目標を設定しています。本計画を着実に実現するため、首都高グループ一体となって取り組んでいきます。


6つの基本方針

首都高グループではこの6つの基本方針をCSR重要課題としています。


1 安全・安心の追求

～24時間365日、首都圏のひと・まち・くらしを支え続けるために～

- i-DREAMs®を活用した適切かつ効率的な維持管理の推進
- 日本橋区間地下化事業などの大規模更新・大規模修繕事業の推進、構造物の高齢化の進行への対応
- 危機管理及び災害対策の強化




トンネル点検




2 快適・便利なサービスの提供

～お客さまと地域社会から信頼され続けるために～

- 交通マネジメントの推進など渋滞のない首都高に向けた取り組み
- 周辺のまちづくりとの連携や脱炭素社会に向けた取り組みなど地域社会との連携強化
- ETC専用化及び新たな料金施策の推進




ETC専用入口(横浜北線 馬場入口)



3 関連事業の推進

～社会に貢献する企業として成長するために～

- 駐車場事業の強化・拡充、新たなPA等の創造
- i-DREAMs®などの専門技術を活用した事業の展開
- 将来の成長分野への経営資源の集中と新規事業の創造・事業領域拡大



川口ハイウェイオアシス



主な数値目標一覧

中期経営計画2021-2023においては、2023年度を時期目標としています。

1-1 健全橋梁率※1

2022年度実績	2023年度目標
94%	94%

1-3 トンネル点検率

2022年度実績	2023年度目標
78%	100%

2-1 渋滞損失時間※2

2022年度実績	2023年度目標
2,270万台・時	2,200万台・時以下

1-2 橋梁点検率

2022年度実績	2023年度目標
87%	100%

1-4 道路附属物点検率

2022年度実績	2023年度目標
86%	100%


2-2 交通規制時間

2022年度実績	2023年度目標
197時間/km	210時間/km以下


4 技術開発の推進

～技術のリーディングカンパニーとしてさらなる飛躍のために～

- 先進技術・DXの推進
- 新技術、新材料及び再生可能エネルギーの活用による社会・環境への貢献
- 総合的マネジメントの推進とパートナーシップの強化



太陽光パネルの設置



5 首都高グループ総合力の強化

～グループの力を結集し、最大限の力を発揮するために～

- 首都高グループ全体の経営基盤強化
- 首都高の事業理解を促進するための情報発信力の強化




子ども向け特別講座の様子




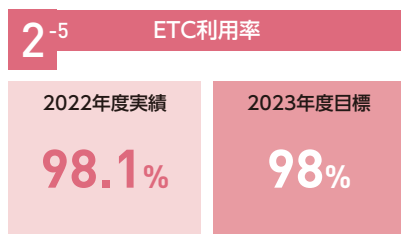
6 首都高を支える人材・職場づくり

～社員一人ひとりが元気に前向きに安心して働ける職場であり続けるために～

- 首都高を支える人材の育成
- 働き方改革の推進等による職場づくり



社員による首都高ウォッチングの実施

※1 健全橋梁率: 橋梁の健全度を表す比率 ((全橋梁径間数)-(早期に修繕を必要とする橋梁径間数))÷全橋梁径間数
 ※2 渋滞損失時間: 渋滞が発生することによる利用者の年間損失時間 (所要時間(時間)-規制速度走行時の所要時間(時間))×交通量(台)
 ※3 当社調べ

第1期

1962年～1970年

都心環状線と放射路線の整備



都心環状線(京橋～芝浦間)開通式

12月20日
首都高初の開通
(1号線京橋～芝浦間4.5km)

第2期

1971年～1988年

都市間高速道路との接続



三郷線開通式

3月21日
6号向島線(江戸橋JCT～堤通間)、
7号小松川線全線開通
／京葉道路と接続

12月21日
3号渋谷線全線開通
／東名高速道路と接続

1月20日
千葉県内初の開通
湾岸線(新木場～浦安間)

1月24日
埼玉県内初の開通
6号三郷線
(小菅JCT～三郷JCT間)
／常磐自動車道と接続

第3期

1989年～

さらなるネットワーク整備



建設中のかつしかハーブ橋

8月26日
レインボーブリッジ
(11号台場線)開通

10月26日
5号池袋線
(戸田南～美女木JCT間)開通
／東京外環自動車道と接続

1962 1967 1968 1971 1973 1976 1978 1985 1987 1989 1993 1994 1997 1998 2001

7月19日
神奈川県内初の開通
神奈川1号横羽線
(浅田～東神奈川間)
／総延長50km突破

7月4日
芝公園～霞が関間の開通により、**都心環状線**が形成される

5月18日
4号新宿線全線開通
／中央自動車道と接続

2月15日
八重洲線開通
／総延長100km突破

9月27日
横浜ベイブリッジ
(湾岸線)開通

9月9日
中央環状線(四つ木～葛西JCT間)、
中央環状線(千住新橋～江北JCT間)、
川口線(江北JCT～川口JCT間)開通
／東北自動車道と接続／総延長200km突破

12月18日
東京湾アクアライン
と接続

5月18日
埼玉大宮線
(美女木JCT
～与野間)開通

12月21日
鶴見つばさ橋(湾岸線)
開通



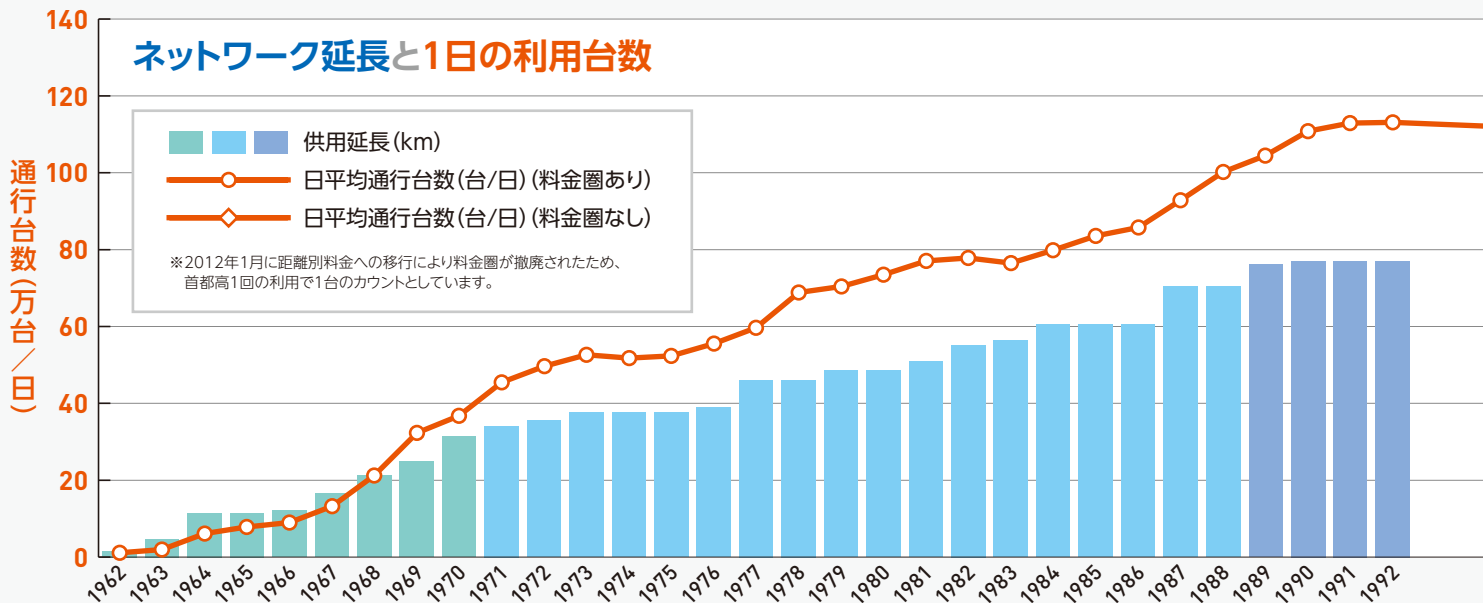
建設中の一ノ橋JCT



新宿線全線開通式



横浜ベイブリッジ(湾岸線)開通式



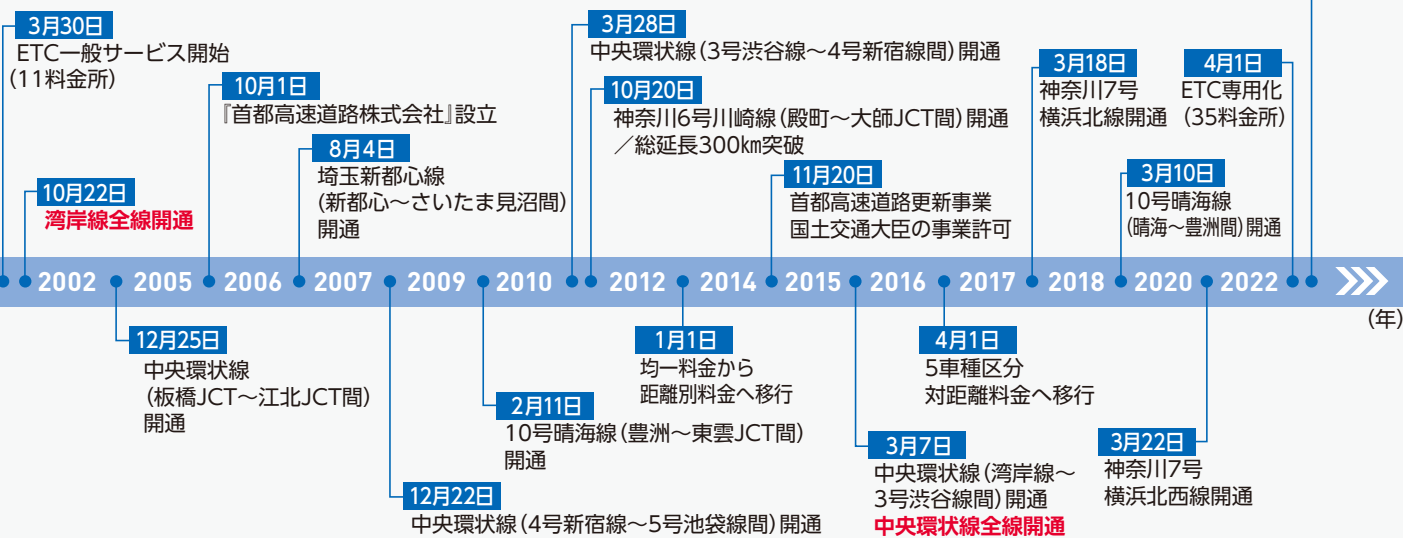
開通
60
周年



建設中のレインボーブリッジ



中央環状線山手トンネル(湾岸線～渋谷線間)開通式



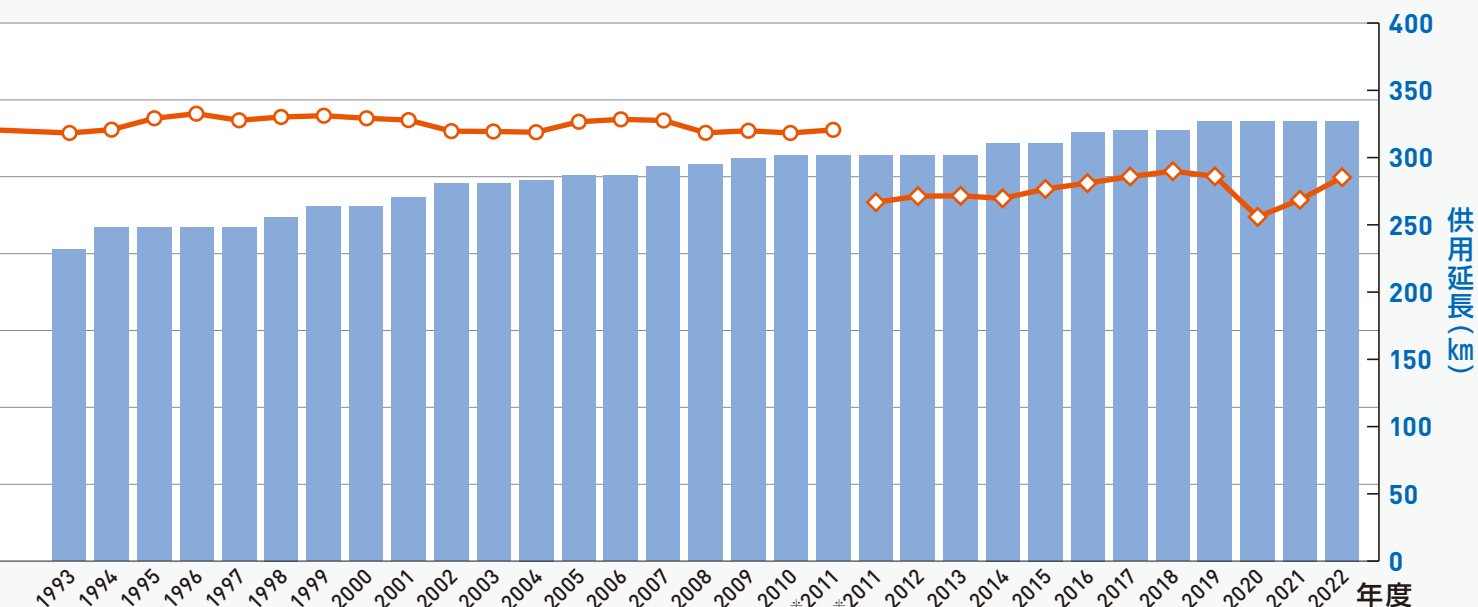
湾岸線全線開通式



神奈川横浜北線開通式



晴海線(晴海～豊洲間)開通



1日約 **100万台** の交通量

首都圏の道路ネットワークの中核を担い、人々に安全、円滑、快適な道路サービスを提供しています。

約 **327km** の道路ネットワーク

首都圏の幅広いエリアを道路ネットワークで結び、各自治体や地域の皆さまとともに、地域社会の発展に貢献しています。

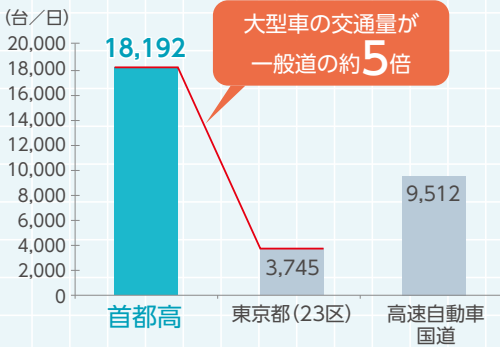
一般道と比べて約 **5倍** の大型車交通量

都市間高速道路との接続により、首都圏と各地を繋いでいます。大型車の交通量が東京23区一般道の約5倍となっており、物流の効率化に寄与している一方、過酷な使用状況にさらされています。

きめ細やかな維持管理を必要とする構造物が **95%**

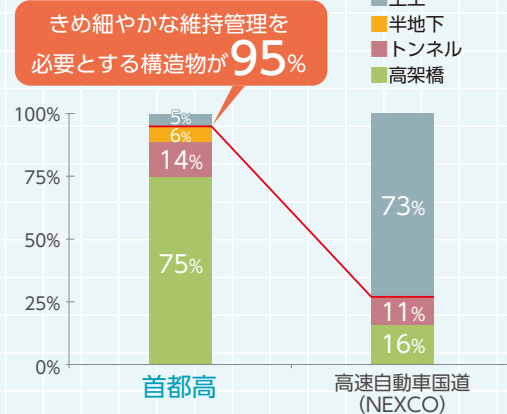
首都高は、きめ細やかな維持管理を必要とする高架橋やトンネルなどの構造物の占める割合が約95%となっており、他の道路と比べて著しく高くなっています。

大型車の交通量比較



出典：平成27年度 道路交通センサスより
 ●首都高における大型車断面交通量の平均(平日)
 ●東京23区内の一般道(都道)における大型車断面交通量の平均(平日)
 ●日本全国の高速自動車国道における大型車断面交通量の平均(平日)
 (上記大型車断面交通量の平均(平日)は、平日24時間大型車走行台キロの総計を総延長で除した値)

道路構造別比率

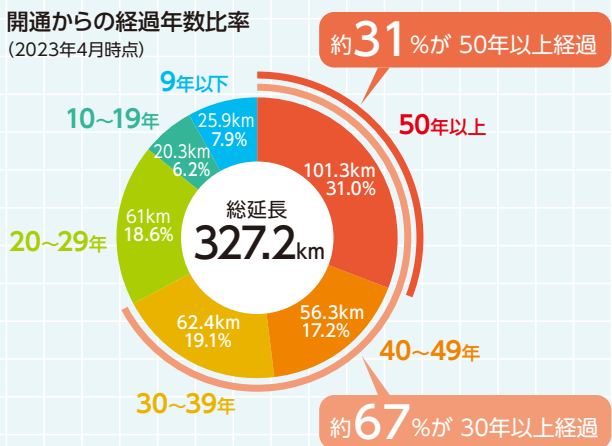


首都高：2023年4月時点
 NEXCO：高速道路便覧2021より

総延長のうち **約31%** が開通から **50年** 以上経過

総延長が約327kmにわたる首都高のうち、開通から50年以上を経過した路線が全体の約31%(約101km)、30年以上経過した路線が約67%(約220km)に達し、道路の高齢化が進んでいます。

開通からの経過年数比率 (2023年4月時点)



首都高の35料金所は ETC専用入口 です

! ETCカードを車載器に挿入した車両のみ通行できます

現金、クレジットカード、ETCカード手渡しでの料金のお支払いや、領収書・利用証明書の発行はできません。ETCカードの挿入し忘れや挿し込み不良にご注意ください。

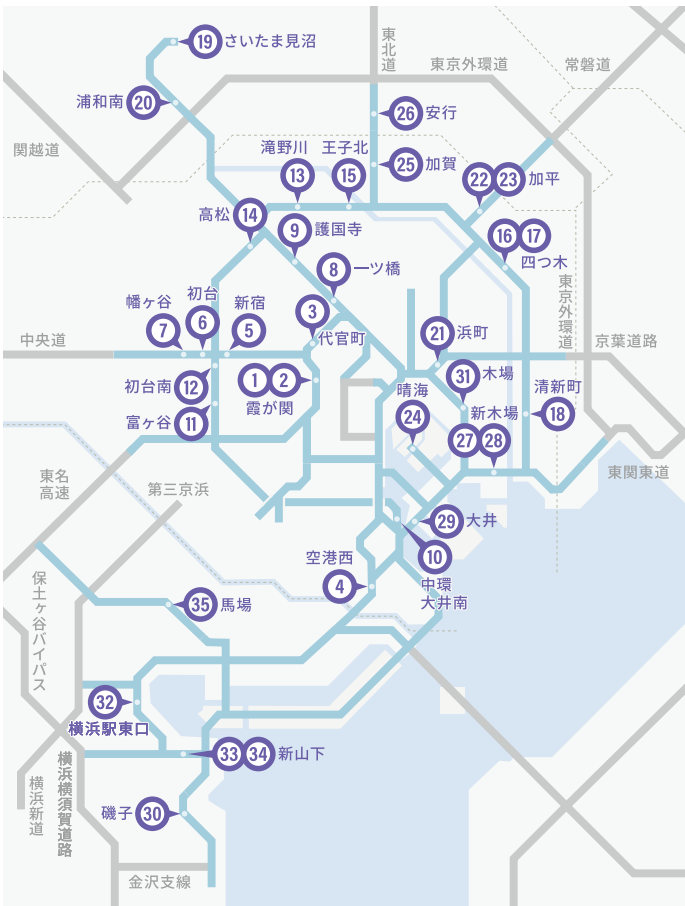
💡 ETCのメリット

- お客さまがご利用になれる出入口間の距離に応じた料金の適用 (ETCをご利用にならないお客さまは一部区間を除き一律上限料金となります)
- キャッシュレス化によりノンストップ走行が可能



ETC専用入口はこの看板が目印です

--	--



ETC専用入口 (2023年3月時点)

- | | |
|------------|--------------|
| ① 霞が関(内) | ①⑨ さいたま見沼(上) |
| ② 霞が関(外) | ②⑩ 浦和南(上) |
| ③ 代官町(内) | ③⑪ 浜町(上下) |
| ④ 空港西(上) | ④⑫ 加平<南>(上下) |
| ⑤ 新宿(上) | ⑤⑬ 加平<北>(上下) |
| ⑥ 初台(下) | ⑥⑭ 晴海(下) |
| ⑦ 幡ヶ谷(上) | ⑦⑮ 加賀(上) |
| ⑧ 一ツ橋(下) | ⑧⑯ 安行(上) |
| ⑨ 護国寺(上) | ⑨⑰ 新木場(西) |
| ⑩ 中環大井南(外) | ⑩⑱ 新木場(東) |
| ⑪ 富ヶ谷(外) | ⑪⑲ 大井(東) |
| ⑫ 初台南(内) | ⑫⑳ 磯子(東) |
| ⑬ 滝野川(内) | ⑬㉑ 木場(上) |
| ⑭ 高松(外) | ⑭⑳ 横浜駅東口(下) |
| ⑮ 王子北(外) | ⑮㉒ 新山下(上) |
| ⑯ 四つ木(内) | ⑯㉓ 新山下(下) |
| ⑰ 四つ木(外) | ⑰㉔ 馬場(上下) |
| ⑱ 清新町(内) | |
- *カッコ内は方向

詳しくは [首都高 ETC専用](#) で検索